



31 林谷五郎

《七宝菊花形置時計》 一点

昭和三年（一九二八）

七宝

高四九・〇 径五一・〇

昭和三年（一九二八）の大札に際して、愛知県より昭和天皇へ献上された七宝製置時計。蓋には菊花を模した鈕が付き、表面に凹凸をつけて白い菊の花弁をかたどった容器の左右の縁には大ぶりの鳳凰の装飾が取り付けられている。そのほか、蓋、胴、裾にかけて、雲気文や蓮弁に桐文、桜、橘、忍冬文などの文様を有線七宝であらわしている。愛知県の昭和大礼記録によれば、文様の輪郭線、蓋と容器の内張りには純金が用いられ、胴部の時計はスイスの高級時計メーカー、ロンジン社製の機構が採用されている。

作者は大正期から昭和前期にかけての尾張七宝を代表する名工として知られる、同県海部郡七宝村の林谷五郎。林は安藤七宝店の製品も手がけていたが、本作品の底部には金属線による「林谷」の銘があり、林本人の作品として製作されたものである。なお、この菊花を模したユニークなデザインは、愛知県工業試験所で技師を務めていた長沢基による考案と伝えられている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大札 ― 慶祝のかたち

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 85

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 公益財団法人 菊葉文化協会

令和元年九月二十一日発行

©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan